

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第2区分

【発行日】平成17年10月20日(2005.10.20)

【公開番号】特開2003-167190(P2003-167190A)

【公開日】平成15年6月13日(2003.6.13)

【出願番号】特願2002-196159(P2002-196159)

【国際特許分類第7版】

G 0 2 B 13/00

G 0 2 B 13/18

G 1 1 B 7/135

【F I】

G 0 2 B 13/00

G 0 2 B 13/18

G 1 1 B 7/135 A

【手続補正書】

【提出日】平成17年6月29日(2005.6.29)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】請求項5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項5】

前記色収差補正用光学素子は、次式を満たすことを特徴とする請求項1乃至4のいずれか1項に記載の色収差補正用光学素子。

$$0.5 \times 10^{-2} < P_D < 15.0 \times 10^{-2}$$

ただし、

P_D ：前記色収差補正用光学素子の第*i*面に形成された回折構造により、前記色収差補正用光学素子を透過する波面に付加される光路差 b_i を光軸からの高さ h_i (mm)の関数として、 $b_i = n_i \cdot (b_{2i} \cdot h_i^2 + b_{4i} \cdot h_i^4 + b_{6i} \cdot h_i^6 + \dots)$ により定義される光路差関数で表したとき(ここで、 n_i は第*i*面に形成された回折構造で発生する回折光のうち最大の回折光量を有する回折光の回折次数、 b_{2i} 、 b_{4i} 、 b_{6i} …は、それぞれ2次、4次、6次、…の光路差関数係数である)、 $P_D = (-2 \cdot b_{2i} \cdot n_i)$ により定義される回折レンズとしての回折パワー(mm^{-1})

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】請求項7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項7】

少なくとも1つの面上に複数の輪帯段差からなる回折構造を有し、次式を満たすことを特徴とする色収差補正用光学素子。

$$1.0 \times 10^{-2} < P_D < 10.0 \times 10^{-2}$$

ただし、

P_D ：前記色収差補正用光学素子の第*i*面に形成された回折構造により、前記色収差補正用光学素子を透過する波面に付加される光路差 b_i を光軸からの高さ h_i (mm)の関数として、 $b_i = n_i \cdot (b_{2i} \cdot h_i^2 + b_{4i} \cdot h_i^4 + b_{6i} \cdot h_i^6 + \dots)$ により定義される光路差関数で表したとき(ここで、 n_i は第*i*面に形成された回折構造で発生する回折光のうち最大の回折光量を有する回折光の回折次数、 b_{2i} 、 b_{4i} 、 b_{6i} …は、それぞれ

2次、4次、6次、・・・の光路差関数係数である)、 $P_D = (-2 \cdot b_{2i} \cdot n_i)$ により定義される回折レンズとしての回折パワー(mm^{-1})